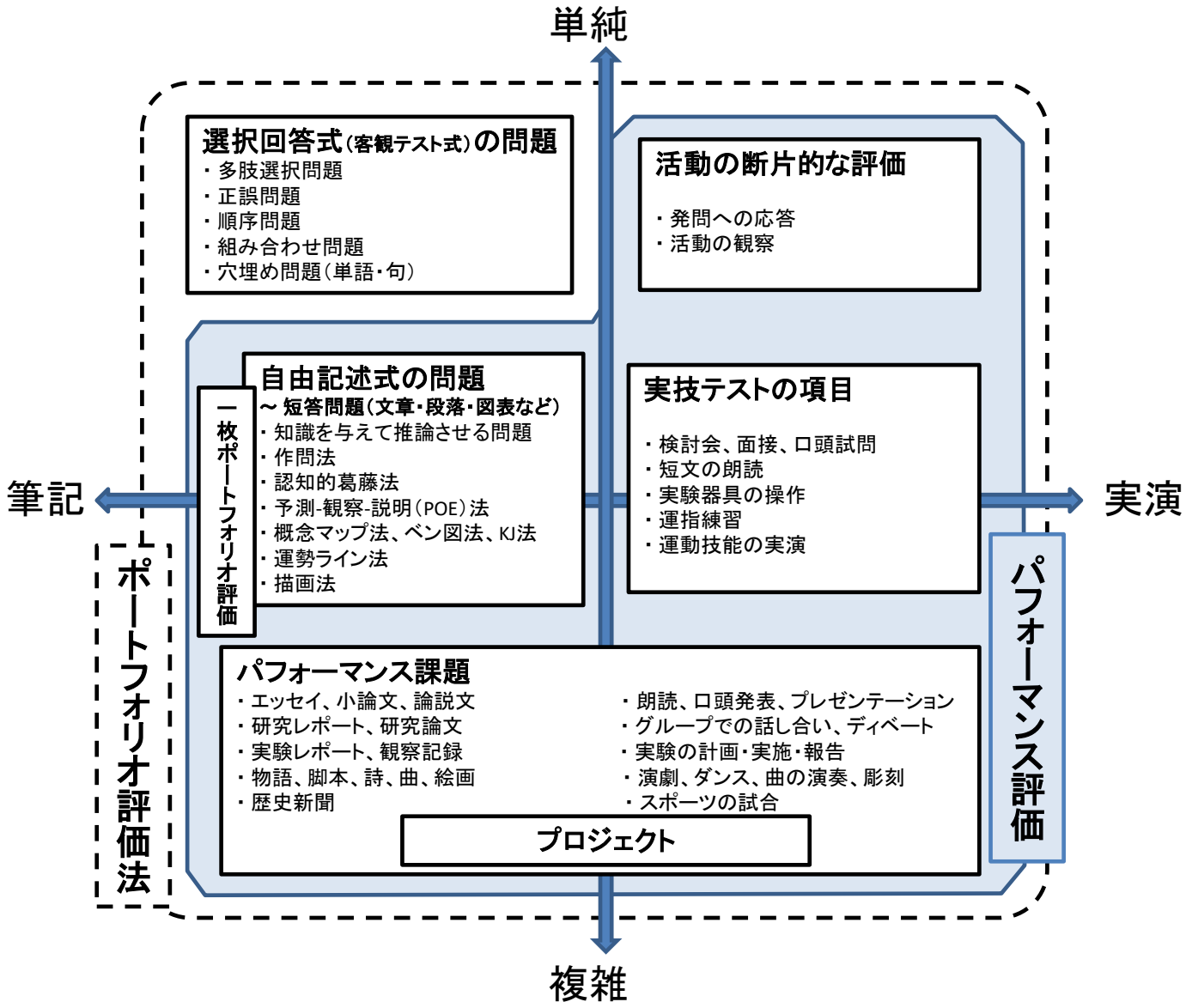
ルーブリックとは何か

ポスコロSIP AICAN　共同研究者
京都大学大学院教育学研究科　准教授
奥村　好美

（2025年4月1日公開）

パフォーマンス評価・パフォーマンス課題とは何か

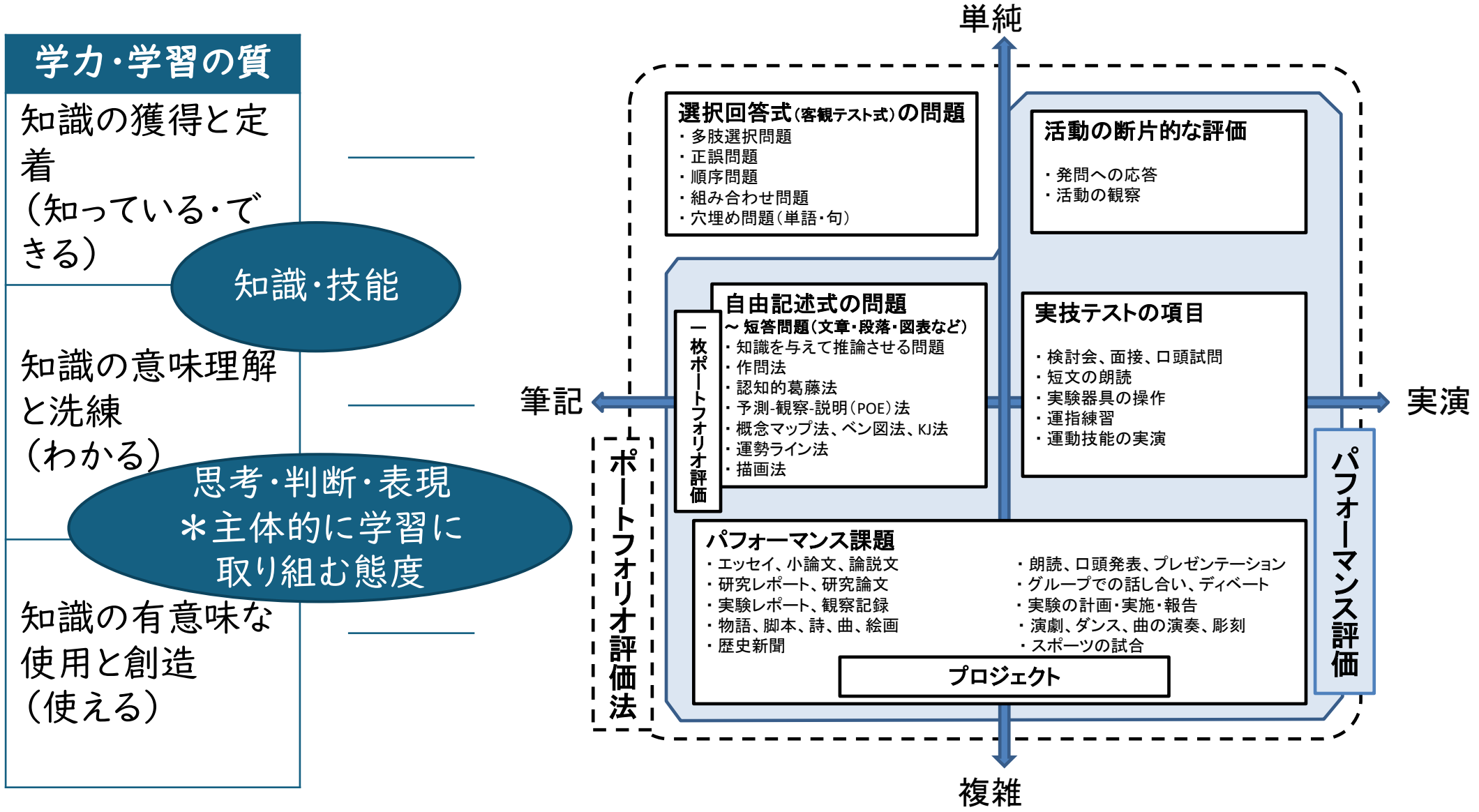


パフォーマンス評価とは…
知識やスキルを使いこなす（活用・応用・総合する）ことを求めるような評価方法の総称。

パフォーマンス課題とは…
様々な知識やスキルを総合して使いこなす（活用する）ことを求めるような，複雑な課題。

（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化社，2016年，p.83）

様々な評価方法と学力・学習の質



（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計ーパフォーマンス評価をどう活かすかー』（図書文化社，2016年，p.83）や石井英真「学力向上」篠原清昭編著『学校改善マネジメント』（ミネルヴァ書房，2012年，p.140）などを参考に，組み合わせて作成；奥村好美「さまざまな評価方法と妥当性・信頼性」『指導と評価』No.832，2024年3月，pp.15-17 ）

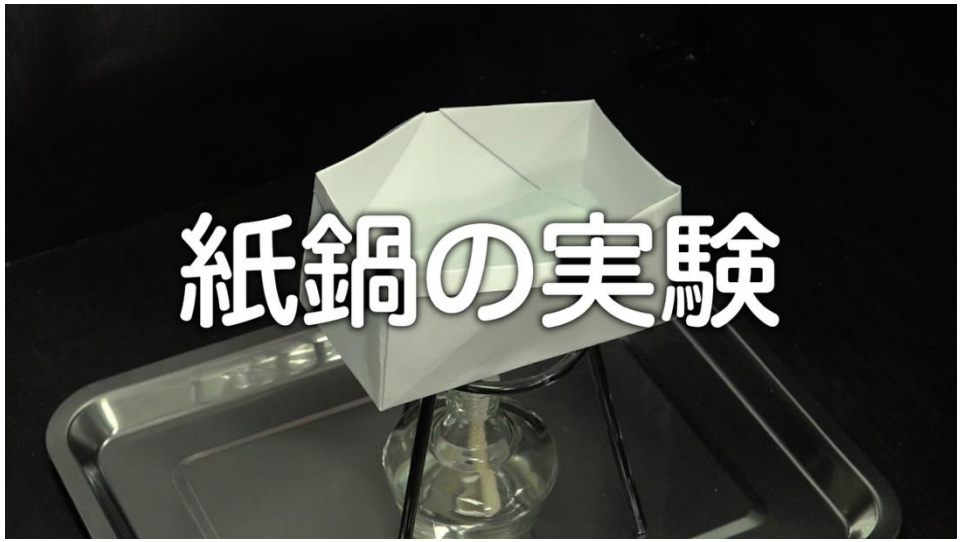
理科のパフォーマンス課題の例（チームD 2023-4年度の開発から）

単元： 小学校6年「もののもえ方」



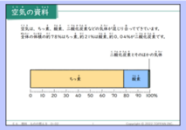
＊愛知県立大学准教授
大貫守先生を中心に開発

- **「身の回りの消火設備について消火設備冊子または説明書を作ってみよう！」**



（動画例）紙の中の水が対流を起こし100度に保たれるため，紙の引火点（400度）に達せず，水がなくなるまで燃えない。

資料集

資料	タイトル	概要
	空気に含まれる気体の性質	空気中の混合率だけでなく、色やにおい、重さ、水への溶けにくさも表形式で用意。
	火事で発生するけむりや有害物	建物火災の死因割合や有毒ガスの人体への影響、有害ガスの性質や煙の拡がる速さについて説明。
	ものが燃え始める温度	様々なものの発火点（≒引火点）を表形式で用意。
	気体検知管の目盛りの読み方	特に迷いやすい色の濃さの境目や斜めに変わっている時の目盛りの読み方を説明。
	江戸時代の破壊消火	動画でも確認した破壊消火に使われていた道具の紹介。

（参考： G･ウィギンズ，J･マクタイ著，西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計――「逆向き設計」の理論と方法』日本標準，2012年）

ルーブリックとは

・成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と，それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語（descriptors）から成る評価基準表

・人間の解釈・判断がベースにある

＊「ルーブリックという表がまずありきで，その物差しを子どもに当てはめて評価する」ではない

あくまで目標が先！ ×ルーブリック評価

・アンカー作品：各レベルの特徴を示す典型的な作品事例

（西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法ー新たな評価基準の創出に向けてー』図書文化社，2003年，pp.100-101；
石井英真『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房，2020年，p.250，p.255）

ルーブリックの例（小学校６年理科 単元「もののもえ方」より）

観点を分けてもOK

尺度	記述語
レベル５	燃焼の３条件について授業で取り組んだ実験と関連づけて説明することができている。さらに、選んだ消火設備における消火の仕組みについて、３条件のうち適切なものと関連づけて、小学校4年生の子どもたちにもわかるように説明できている。
レベル４	燃焼の３条件について授業で取り組んだ実験と関連づけて説明することができているものの、一部に修正可能な程度の不備が見られる。さらに、選んだ消火設備における消火の仕組みについて、３条件のうち適切なものと関連づけて説明が正しくなされているものの、結論の叙述に留まっている。
レベル３（合格）	燃焼の３条件が挙げられ、実験と関連づけられた一応の説明がされているものの、その理解が表面的なものに留まっている。消火設備の説明についても、３条件のうち適切なものと関連づけて説明しているものの、若干の不備が見られる。
レベル２	燃焼の3条件を意識し始めているが、十分に説明できていない（一部に誤解が見られる）。消火設備の消火の仕組みについては説明しようとしているものの、3条件との結び付け方が明快でなかったり、不備が見られたりすることもある。
レベル１	燃焼の3要素について、説明がほぼできていない。消火設備の消火の仕組みもうまく説明できていない。
レベル０	判読不可能

ルーブリックの種類

観点を分けるかどうか

- 観点別ルーブリック：観点を分ける
- 全体的ルーブリック：観点を分けない

どの程度の汎用性があるか

- 特定課題ルーブリック：特定課題に対応する
- 特定教科のルーブリック：特定の教科内容を扱う（数学的論証，歴史のレポート等）
- 特定ジャンルのルーブリック：特定ジャンルのパフォーマンスに用いられる（論説文等）
- 一般的ルーブリック：多種類のパフォーマンスを対象に適用できる

特定場面に対応するのか，長期的な進歩を示すのか

- 特定場面ルーブリック：特定の課題・内容・文脈に対応する
- 長期的/発達的ルーブリック：長期にわたる成長を描き出す

（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計ーパフォーマンス評価をどう活かすかー』図書文化社，2016年，p.101）

学力評価計画の立て方（イメージ）

観点	評価方法	単元1	単元2	・・・	単元X	単元Y	評価基準
思考・判断・表現	パフォーマンス課題		○	・・・		◎	（長期的）ルーブリック
知識・技能	筆記テスト／実技テスト	◎	◎	・・・	◎	◎	チェックリストで達成率を評価

○：指導する観点，◎成績づけに入れる観点

（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計ーパフォーマンス評価をどう活かすかー』図書文化社，2016年，pp.160-163；
西岡加名恵編著『高等学校教科と探究の新しい学習評価』学事出版，2020年，p.15をもとに微変更）

ルーブリックのつくり方

①パフォーマンス課題を実施し，学習者の作品（完成作品や実演）を集める。

②パッと見た印象で5つのレベルで採点し，付箋に評点を書く。

（複数名で採点する場合は，お互いの採点がわからないように，評点を書いた付箋紙を作品の裏に貼り付けるといった工夫をするとよい）

③（複数名で行う場合は全員が採点を行なったら，付箋紙を表側に貼り直し）レベル別に作品群に分ける。それぞれのレベルに対応する作品群について，どのような特徴がみられるのかを読み取り，記述語を作成する。（複数名で作る場合は意見がだいたい一致した作品から分析するとよい）

④各レベルを代表する学習者の作品番号も合わせて書いておく。

⑤必要に応じて評価の観点を分けて，観点別ルーブリックにする。

（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計ーパフォーマンス評価をどう活かすかー』図書文化社，2016年，pp.102-107）

特定課題ルーブリックづくりの良さ

・複数の評価者の間で評価の観点や水準を共通理解できる。

・ 子どもたちの学習の実態を具体的に捉えられる。

・指導やカリキュラムの改善について，具体的に考えやすくなる。

（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計ーパフォーマンス評価をどう活かすかー』図書文化社，2016年，pp.102-107）

評価の妥当性と信頼性

妥当性：評価したいものを，本当に評価できているのかを問う概念。	信頼性：どの程度，正確に評価することができるのかを問う概念。
カリキュラム適合性：学力評価計画がカリキュラムで設定されている目標群に適切に対応するものとなっているかを検討する視点。	比較可能性：評価者が評価基準を共通理解し，同じ採点規則に従うことによって評価の一貫性が確保されているのかどうかを見るもの。 （例） ルーブリックにアンカー作品をつける。 複数名の評価者が共同でルーブリックを作る。

（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計―パフォーマンス評価をどう活かすか―』図書文化社，2016年，pp.167-168，pp.273-274）

（作品がない場合）予備的ルーブリックの作り方

作り方その1

①3つのレベルを示すような，全体的ルーブリックのテンプレートを準備する。
②レベル1の記述語欄には単元を始める時点でみられるであろう子どもの実態，レベル2の記述語欄には単元末までに全員に到達させたい状態，レベル3の記述語欄には単元の最後に到達しうる理想的な状態を想定して，予想されるパフォーマンスの特徴を記入する。
③必要があれば，観点別に記述語を整理する。

作り方その2

①観点別ルーブリックのテンプレート（観点は多くても6つ）を準備する。
②特定のパフォーマンスを想定しつつ，「すばらしい○○の条件は何か？」を考える。思いついた条件のうち重要なもの4つに絞り，観点とする。
③程度の違いをつけて，それぞれの評価の観点に対応する記述語を書く。
＊必要があれば重みづけをすることもできる。

＊程度の表現例

効果の程度	頻度の程度	独立の程度
非常に効果的 かなり効果的 いくらか効果的 効果的ではない	常に，継続的に 頻繁に，一般的に 時々，時に めったに～ない	独立して 最小限の支援のもとで いくらかの支援を必要としつつ かなりの支援を必要としつつ

（西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計ーパフォーマンス評価をどう活かすかー』図書文化社，2016年，pp.111-113参考）